

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ 臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたくないとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

研究課題名：従来型ロボット支援前立腺全摘除術とレチウス腔温存ロボット支援前立腺全摘除術後における下部尿路機能と性機能に関する後方視的検討

1. 対象となる患者さん

2016年1月1日から2024年3月31日までに当院で前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘除術を受けた患者さん

2. 研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 泌尿器科 後藤大輔

3. 研究の目的と意義

前立腺癌は男性の癌の罹患率で最も多く、限局性前立腺癌の治療の中心はロボット支援前立腺全摘除術であり、その最大の不利益は術後の尿失禁です。当科では前立腺癌のリスク分類に応じて、従来通りのロボット支援前立腺全摘除術とレチウス腔を温存し膀胱直腸窩から前立腺を摘出するレチウス腔温存ロボット支援前立腺全摘除術を行っています。これらの2つの術式の長期術後経過をみた研究は十分にあるは言えません。2つの術式の下部尿路機能と性機能についての経過とそれに関連する因子を明らかにし、どのような症例で下部尿路機能障害と性機能障害を認めやすいのか、またどのくらいで改善するのかがわかる可能性があり、患者さんの日常生活の質を向上することにつながる可能性があると考えます。

4. 研究の方法

5に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘除術後における下部尿路機能と性機能についての経過とそれに関連する因子を算出します。

5. 使用する情報

本研究はこれまでの資料（診療情報）のみを用いた観察研究です。患者さんの診療録から、年齢、癌のステージ、癌の組織、手術方法、併存疾患、投薬内容、採血、検尿、

症状問診票、ウロダイナミクス検査、画像所見、手術所見、1日あたりのパッド枚数を収集します。

6. 情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

7. 研究期間

学長許可日から 2027年3月31日

8. 個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

9. お問い合わせ先

奈良県立医科大学附属病院 泌尿器科 後藤大輔

住所：奈良県橿原市四条町 840

電話：0744-22-3051

e-mail：urology@naramed-u.ac.jp